



第27巻 第43号 2005年(平成17年)10月20日

Vancouver Shinpo

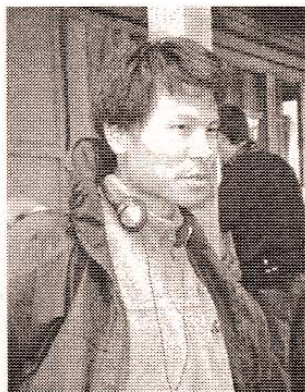
MAPLE ROAD

女優・清水美砂さん主演、地元バンクーバー発 のロマンチック・ラブストーリー 『Paper Moon Affair』



第24回
バンクーバー
国際映画祭
続報

昨年5月よりバンクーバー近郊で撮影が進められていた清水美砂さん主演のインディー映画『Paper Moon Affair』が、10月9日と12日の両日、バンクーバー国際映画祭で公開された。上映日には、デイビッド・タマギ監督を始め、同映画の脚本とプロデューサーを手掛けたフェアチャイルド社社長のトーマス・ファング氏も出演の俳優らの姿も見られ、スタッフらと共に舞台挨拶が行われた。



タマギ監督(撮影現場)

海外作品は初の清水美砂さん
ロケはポニー・アイランドやトワイノミッションなどで行われた。絵葉書のように美しい情景もこの映画の見どころである。87年に『湘南爆走族』のヒロインとしてデビューした、主人公「ケイコ」役の清水さんは現在、家族とアメリカ国内に住む。カンヌ映画祭に出品された出演作品「うなぎ」(監督・今村昌平)と「赤い橋の下」(監督・同)の映画を見たファンク氏より「是非会ってみたい」との要請があった。出演が決まったというが、英語での映画出演は初。苦労もあったようだが、スクリーンでの清水美砂さんの活躍が期待される。



「ケイコ」役の清水美砂さん(撮影現場)

水さんの流暢な英語に違和感は無かった。清水さんの相手役「ハート」を演じる若者も好印象である。また、タマギ監督も音楽ビデオやコマーシャルなどが専門で、映画製作は初めてのことだが、よくできていた。

中国の格言「水花鏡月」をベースに
脚本は、エグゼクティブ・プロデューサーでもあるトーマス・ファング氏が創作したストーリーをベースにしたもので、中国の恋に関する格言「水花鏡月」がモチーフとなっている。体験無しでは書けないと思うストーリーだが、ファンク氏に聞いたところ、一息置いて「ファンタジーです」とにこり笑みを浮かべた。



脚本とプロデューサーを手掛けたトーマス・ファング氏



ハートを演じたブレندان・フレッチャーさん(撮影現場)

『Paper Moon Affair』

監督:デイビッド・タマギ
キャスト:清水美砂/ブレندان・フレッチャー/セバスチャン・スペンス/ジョン・ローン他

あらすじ
ケイコ(清水)は中国系の夫・ハラダ(ジョン)に連れられて、カナダの北西部にある小さな漁師町へ余暇を過ごしにやってきた。裕福だが冷酷な夫との愛の無い結婚生活に、孤独感を消せないケイコ。折り紙が唯一の安らぎだったが、夫はそれも気に入らない。
ある朝目を覚ますと夫の姿が無く、ケイコは置き去りにされたことを知る。そして町へ出たケイコは、二人の男たち——アル中の漁師の父を持つ若者ハート(ブレندان)と、冷めた家庭生活を送る警察官バーン(セバスチャン)——と出会った。若いハートの純朴さに少しずつ心を開く一方で、バーンの積極的な行動を受け入れるケイコに男たちは激しく嫉妬を覚え、互いにぶつかる。いつしか二人にとって、ケイコの存在が何の変化も希望も無い自分の人生を振り返るきっかけとなっていった。
別れの日。ついに熱い思いを抑えきれなくなったケイコとハートは、激しく愛を交わす。だが、ハートが目覚めるとケイコの姿はもう無かった。男たちに恋の幻影を残して。82分。